

一いち寸すん口くち切きり
 朝あ茶ちや湯ゆ
 七しち黒くろ茶ちや機き
 釣つり招まね之の花はな入いれ
 七しち東京とうきょう傳でん作さく
 豐とよ國くに画え
 造ぞう似に教きやう人にん形がた也なり

13
 2378
 7



遠
2378
7

此六十余州の全圖の一面は徑國の大業に志ある人をして地の理
を知りしめ或は遊歴の客廻國順拜の人と勝槩古法を探
神仕佛用るんと云尋ねるふ必用の書あり勿論その國の城下

大日本國郡全圖

彩色摺
箱入
全二冊

郡縣村落山河のいろはを盡く彩色として一覽するふ易
かしく且実ふ東嶽翁が積年の工夫を以て如斯大成し
る古今地圖の書の冠たるものあり此先の諸書に比し

團七黒茶椀

わさちや乃ゆらうとちまう

釣船之花入

朝茶湯す口切
全部六冊

歌川豊國乃七父倉橋五郎兵衛の人物
はくろくしと業と一戯子の似顔の人物と
つくる妙と得たりされ今豊國似顔繪と
業とていふものなり因縁ありて七父の
つくる故栢進夫の根五郎は扮する人物あり父の如く
ひのまきりと今乃三外は先祖の似顔と今見
此人物とゆぐり今三外は所藏の物とかりぬ七父進福の
一端なれはとて趣向のふゆとなしぬ

山東京傳述





祖元

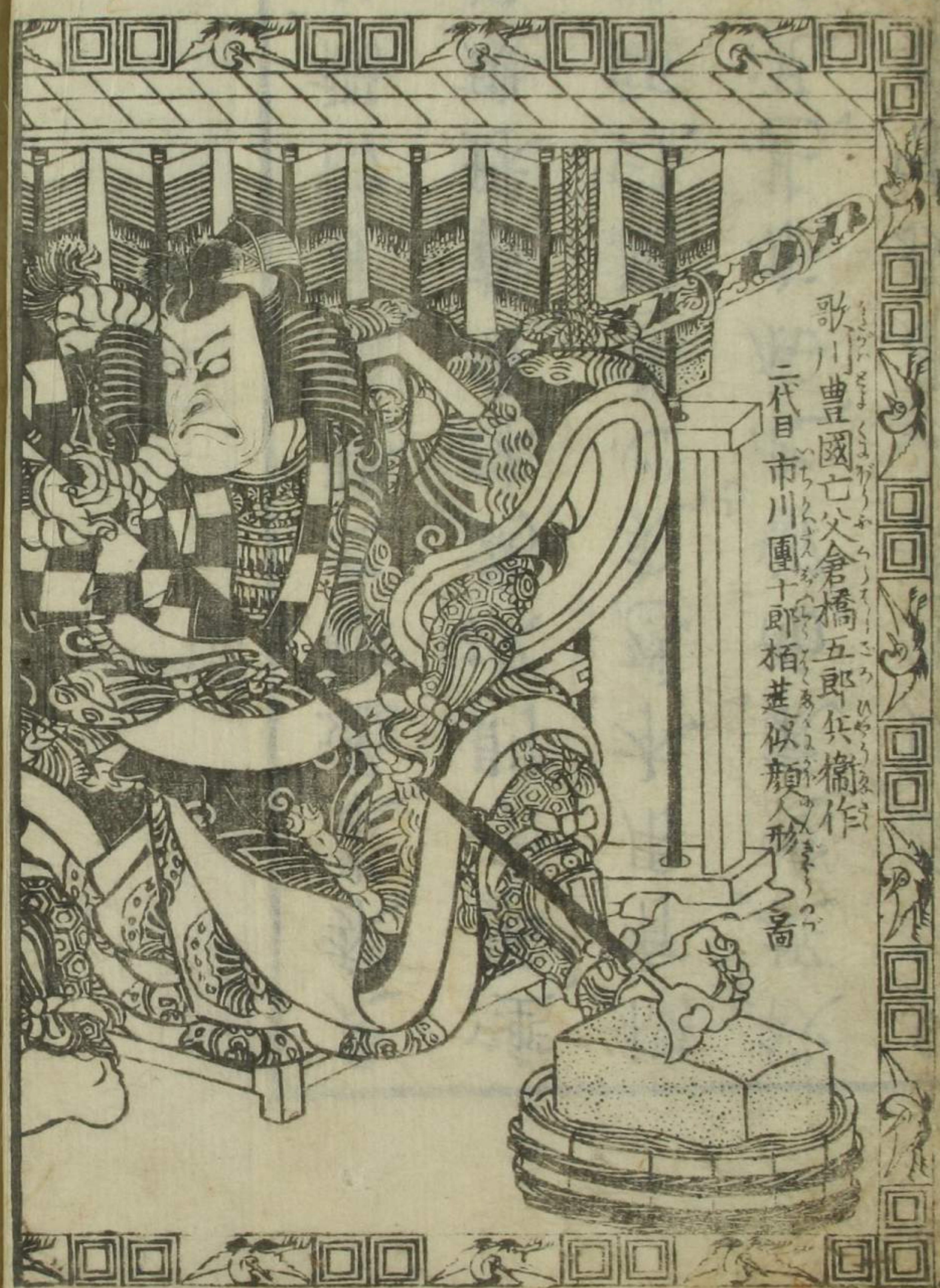
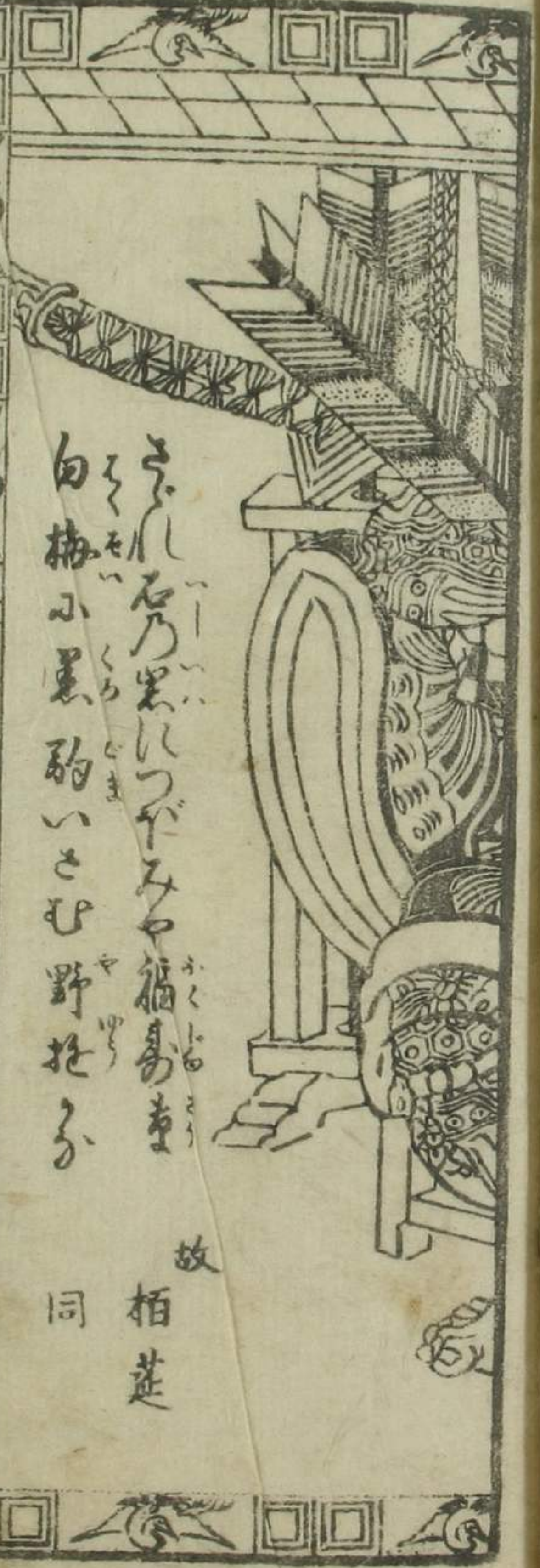


五代目 白猿

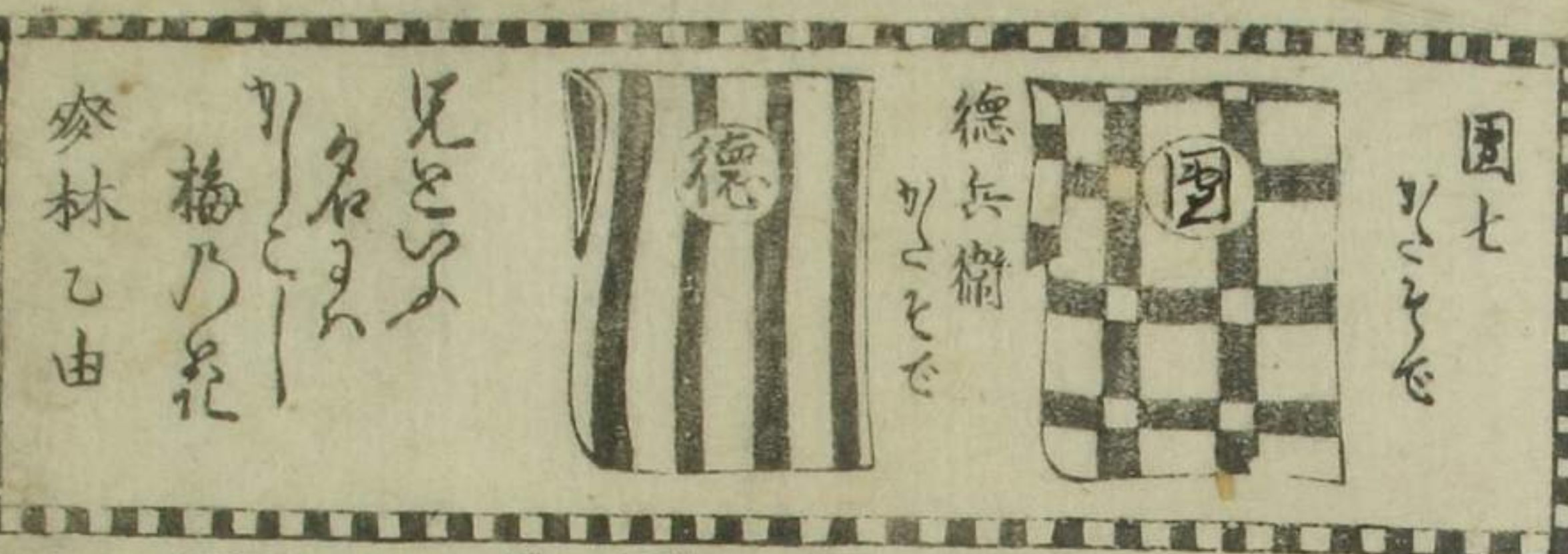


七代目

白梅小黒豹いとむ野牡丹
 名乃黒いつがみや福易車
 故 栢 蓮 同



歌川豊國亡父倉橋五郎兵衛作
 二代目市川團十郎栢蓮似顔人形 音





大鳥
嵯峨
右衛門



夏祭はん附
一冊の
園七
のれん
二冊の
園七
三冊の
園七
四冊の
園七
五冊の
園七
六冊の
園七
七冊の
園七

番附と賣り
祭のき
右共角
うか

浪花津色紙村の
園七黒平



娘小
子代つま七

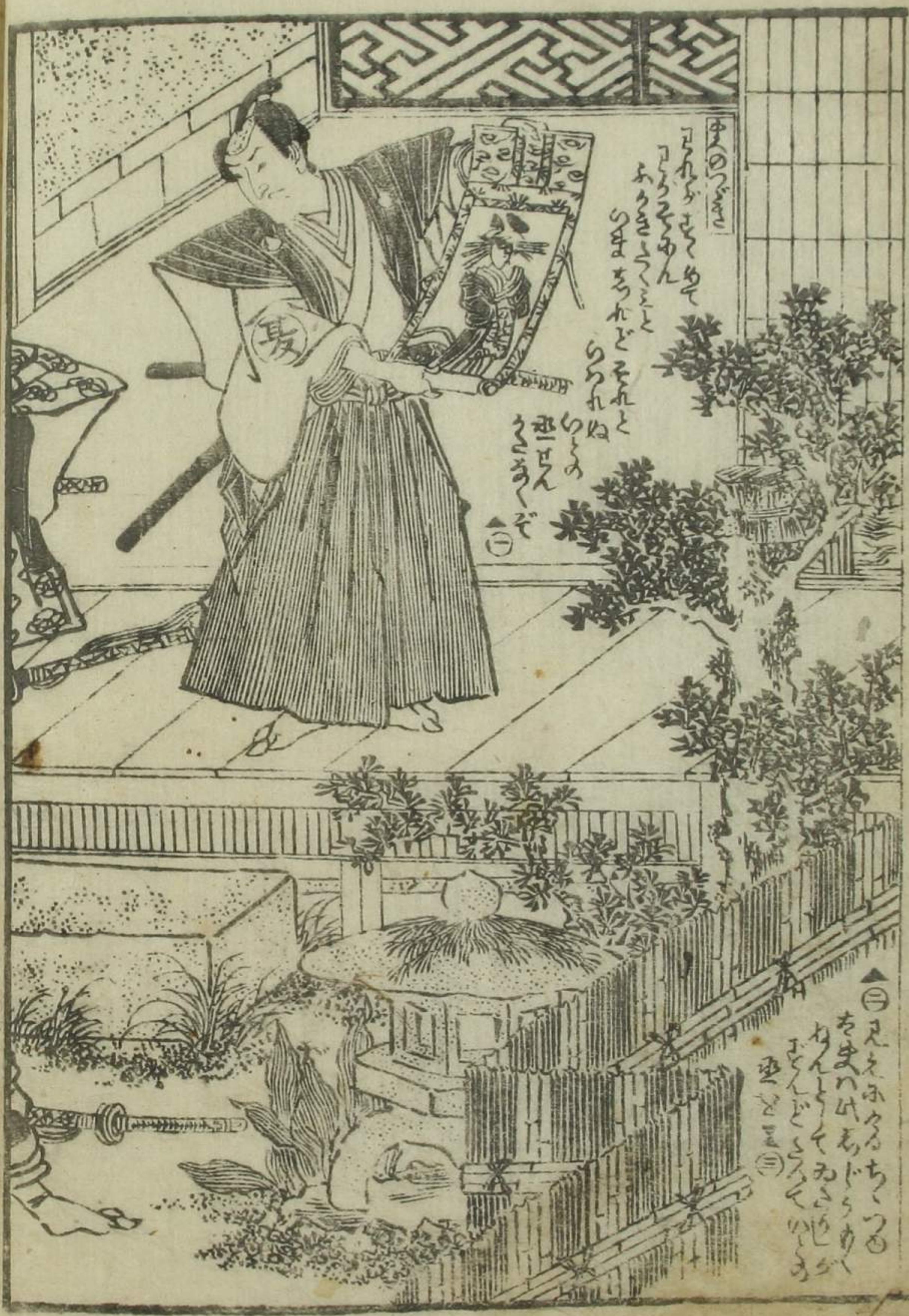
ちんちん
八

物七



涼
去来台

○泉の園蟹田の判官
家臣大鳥嵯峨右果
○折別神崎の
琴浦



此の女
 正徳三年
 二月三日
 辰時
 五十五歳

見えない
 吉良の
 女
 吉良

吉良の女



吉良の女
 正徳三年
 二月三日
 辰時
 五十五歳

吉良の女





酒

京傳の筆
骨董集
近刻
奴古きんろく

豊國
京傳
おとよ

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

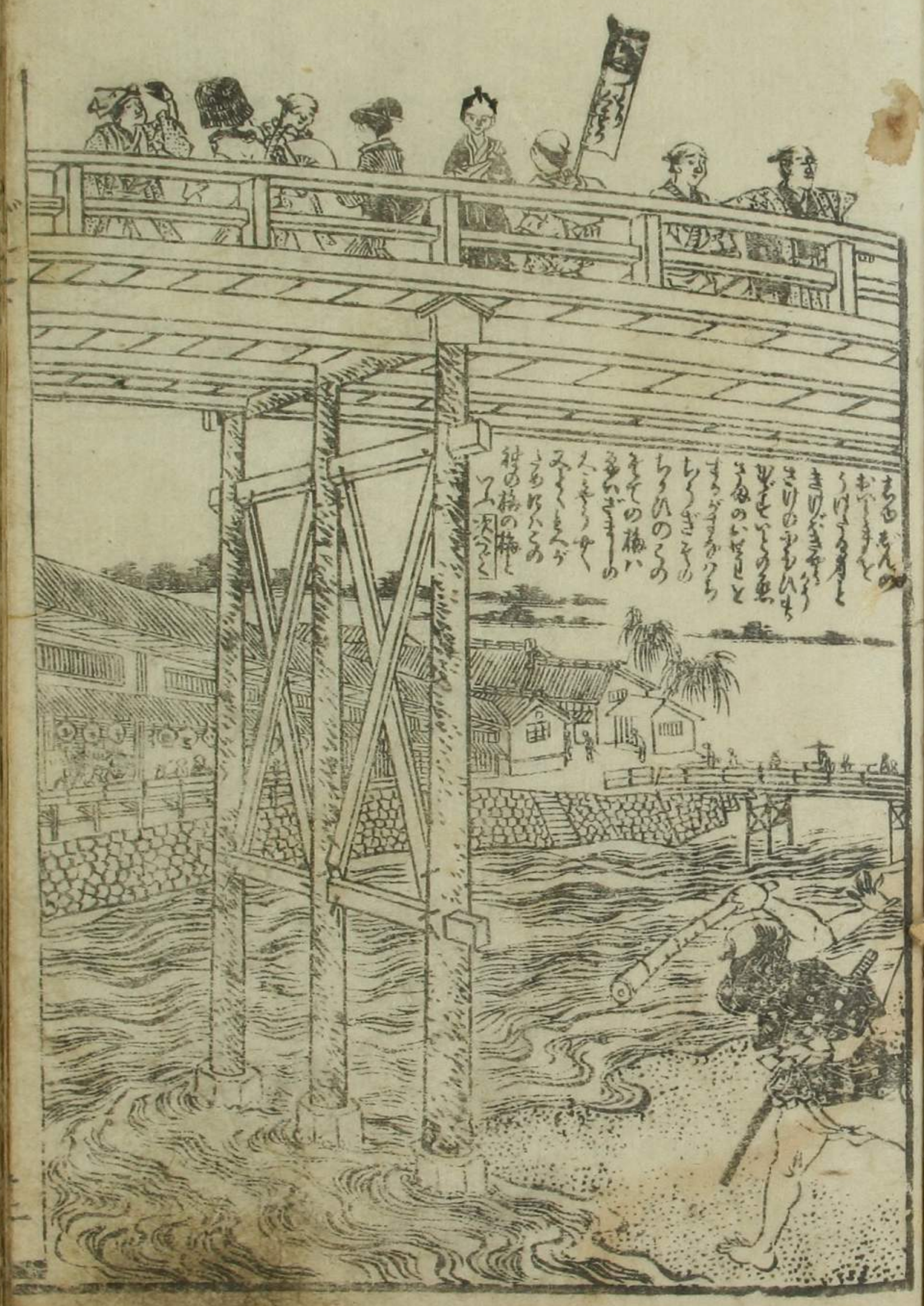
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり
いづくの世にも
あつたことあり

前編下冊





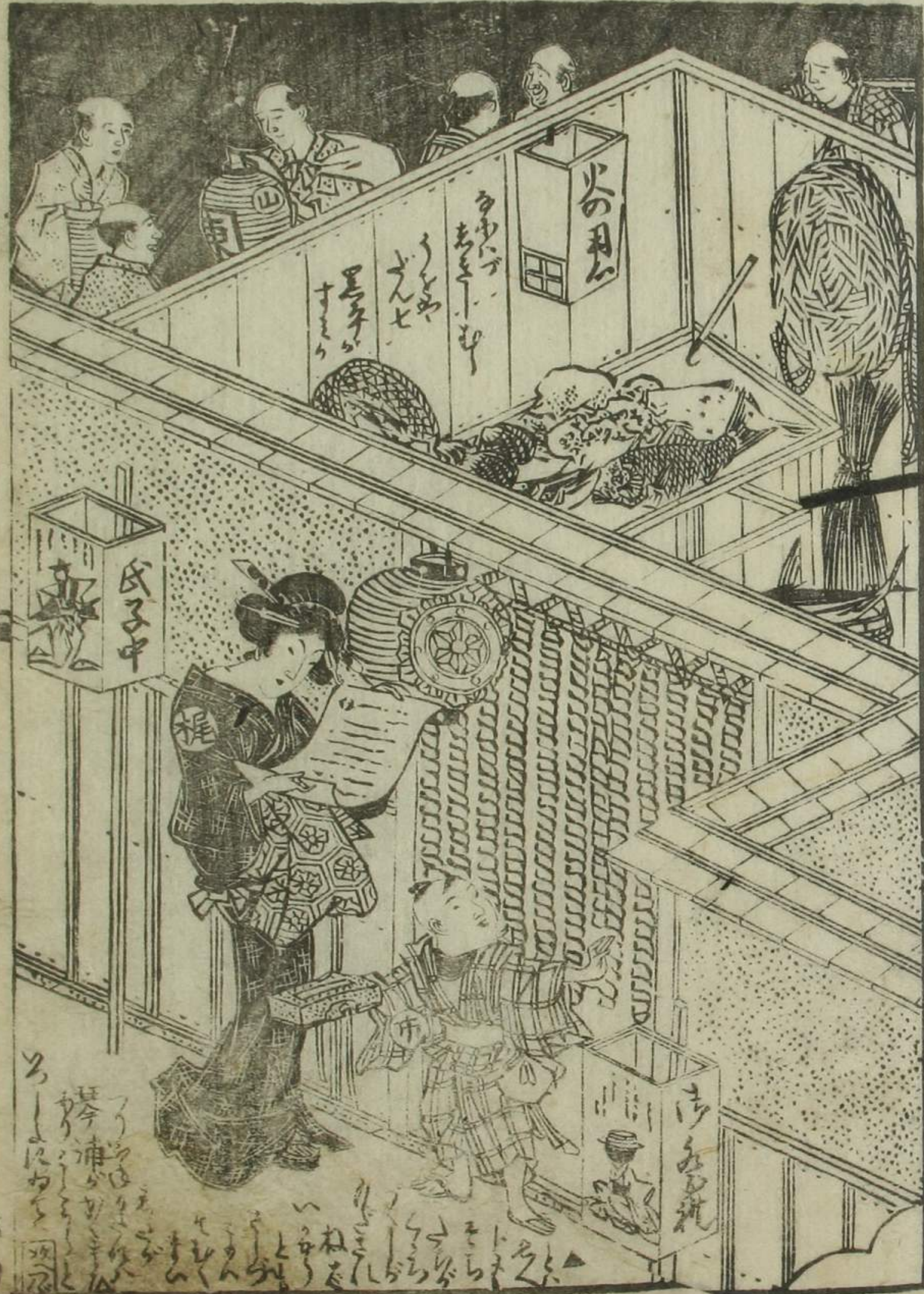
まはるもん
うけとる月と
まじりなきやう
さりのやむは
あそびのいせと
すまがまのつら
しるべきその
らひのこの
そでの橋は
あまさまの
ふまうや
うらむら
村の橋の橋と
つたてく

神橋
州崎



まはるもん
うけとる月と
まじりなきやう
さりのやむは
あそびのいせと
すまがまのつら
しるべきその
らひのこの
そでの橋は
あまさまの
ふまうや
うらむら
村の橋の橋と
つたてく





火の用心
 氏子中
 火の用心
 氏子中
 火の用心
 氏子中



高津社
 高津社
 高津社
 高津社
 高津社

高津社

高津社

後編下冊

三人のついでに...
 村の...
 小づか...
 村の...
 小づか...

子もあつり...
 津高...
 津高...

村人のついで

三人のついでに...
 村の...
 小づか...
 村の...
 小づか...





池
 ん

此の池は昔より名水なり
 其の味は清く甘く
 飲むと心も爽やか
 なるなり

此の池は昔より名水なり
 其の味は清く甘く
 飲むと心も爽やか
 なるなり



山
 此の山は昔より名山なり
 其の景は清く静か
 眺めると心も爽やか
 なるなり

此の山は昔より名山なり
 其の景は清く静か
 眺めると心も爽やか
 なるなり







奉納大願成就
 願主 浪花高津一寸 徳兵衛
 徳兵衛の物語
 徳兵衛は、浪花高津一寸の願主として、大願成就の神に祈りを捧げた。その神は、徳兵衛の誠意を聞き、彼の願いを叶えてくれた。徳兵衛は、神に感謝の意を表し、神に捧げた。

京傳作
 豊國画
 全六冊
 物語



應仁元年 正月吉日
 夏
 古
 小
 市

徳兵衛の物語
 徳兵衛は、夏に、古に、小に、市に、祈りを捧げた。その神は、徳兵衛の誠意を聞き、彼の願いを叶えてくれた。徳兵衛は、神に感謝の意を表し、神に捧げた。

豊国画 山東京傳作

筆耕 德瓶



ありのちのち... 京傳店商物... 風流の雅品... 京傳 自畫... 讀書丸... 京山... 彫工小泉新八

尾張東壁堂藏板畧書目

本居先生著

全一冊

直毘靈

此一卷ハ有ガ中ハ古学の第一心ハべき大事にして儒佛の道... 益多紀書ナレバ別ハ一巻トシテ...

三大考

本居先生門人 服部中庸考

全一冊

是ハ日月と大地との三の始そのありきを... 十七卷の附卷ニ成るを別ニ求むる人の爲ニ一冊トシ...

消息案文

黒沢翁満先生著

上編

全一冊

世の消息の書多しとて下も渾要文との移り俗用と毎事とを名
とすむに雅文の用とあそりのみなり此書中西の雅言と五十音の
假名とをて頭字となしいろはの例ふるひ雅言と探捷徑を
たふ奉存候の雅言思ひあふると云忌惶謹言をあるふといふ
類ひ或々年既暑寒の各帖の俗文の下に雅言をいれし書なり
又六調友の名の雅俗をいれし書なり初学の便常なり

碁經奕範

服部因叔著

全二冊

此碁經ハ局におぶらうらと早とふ一隅をあけてて作傳ハ石斐
これハ局中盡く變とてとる意をとりて法字ふ工史をめぐらさむ

目ロク

碁經奕筌

服部因碩著

全二冊

是ハ局中のふ打方の評論とあひ五字をみしてとむるものハ初学の
者此術小あさひあうめんと秘の字をとりて此筌を忘さうものことなり

煎茶早指南

尾礫舎主人作
月樵老人書

全一冊

此書ハ尾礫榘天満宮尾礫舎主人述作中へ月樵先生
画師の筆をとりて賣茶多相の肖像を写し乃この
箱の煎茶の具ふあふひ一和漢茶の意を出し
茶具の並ね煎茶の法を傳へ同好の人より使ひ

十躰千字文

両面一牧摺

觀音菩薩垂施無畏之圖 唐紙一牧摺一幅

此圖ハ明人李龍眠の描たる真蹟を模寫し觀音の功德三十二身の應現
彼觀音を念むるの力を以て火坑にいらんとす。若も忽ち憂して沈水
なり大水の漂ふ所も浪濤と成て惡鬼毒蛇小遇すも敢て害を更
けど雲雷の宮に制めり大雨を降せりも怖れ無く消災を以て
とる經文の意を宗す圓の周圍の梵字千手の陀羅尼を書きたるもの

草木性譜

舍人清原重巨撰 男 重光校

全三冊

此書ハ山莊田圃の草木の中奇異なるを撰り淳名方之を委く記し花葉
葉根のいろくちをわらち變種別種を考へ諸名家写生の画は着色を以て本
草の遺酒を備へしものを抄卷家の羽翼とす

目録

天文中星風雨考 兩面一牧摺

第一中星の藩を出し次ハ北斗七星の明暗を國家の安危を考へ
万物の吉凶をさし一曆日ふりて其年の善否をさし雲氣を察し
五穀の豊凶を考へ朔日の望氣を考へ風雨旱魃飢饉の天災をけり
燈花開謝ははし人倫の憂喜をさし又五穀の陰晴をさし
一帯の中ふおそ若年の奉物をさし屯重寶とす

日用晴雨管窺

全一冊

此晴雨考ハその日くの晴雨を探出せし天の象とす
八卦の道理を和解し或ハ霧霞露霜電を窺て晴雨をさし
虹蜺日月の暈地震ホの奉ふおそ五穀の豊凶を論をさし

人相早合点 両面一收摺

凡人相子の術ともいふ証ひなき事古くより貴賤貧福寿夭の事
自然不備と云ふ事又痣の出所色相より吉凶聖賢の差別と云ふ
しこく此系と考へんとすも其理の便覧なる事自體て知す之

點竄指南録 坂部先生著 全十五冊

此算法日用の相場割利是美求積田畑取箇等の諸算法より記す
天元演既諸約簡管招差趕越角術山理弧背木の深術ふするまを
法ふしるるる若用不臨く其除の業あるは法不仍て其術系を
探ふに速ふ本術をゆるり初学の爲に古今の美題を集め類として
本術を施し別ふ點竄法不仍て其術系を詳し其用法とすめり

目ロク三

易道早合点 両面一收摺

此早合点其日の晴雨天災商賣の利涸又六損失乾中の減ふ減
病人の吉凶得物の有無失物方位務負の善惡毎月毎日の繰
指を易の卦不準へく吉凶をくは是誠なる高人早合点の書

繪本庭訓往来 北齋為一老人画 全三冊

此書は玄惠法印の他ありし傳ふるを今あつてふ老人の若
事とりて本文不所在人物を款草木其外品物するを撰き
出せるものなるは本文を解すもふる易く寔ふ事智の
童子よりして州本多款の名と形とを考へしむ三百篇の詩
と考へて多く草木を款の名とを考へしむるは優きと云ふ

